

平成28年8月3日

## 1. 建築コスト分野における「人材育成体系」の構築と活用について

公益社団法人日本建築積算協会

会長 吉田倬郎

人材育成委員長 浦江真人

従来、資格を取得することは、「業務を遂行する能力を証明する」、つまりキャリアのゴールであるとの考えが多く見られました。

しかし当協会では、資格取得をキャリアのスタートとして、その後、「能力向上によるキャリア形成のため、継続して資格者を支援していく」というコンセプトにもとづき、新しい「人材育成体系」の開発に取り組んできました。

当協会は、5年前より、所属している企業・組織における実務体験やOJT、組織内研修とともに、当協会が展開する講習会や現場見学会への参加、あるいは当協会発刊の書籍PCM(Project Cost Management)シリーズ購読といった自己学習が効果的に結びついて、継続的に資格者の能力向上を実現するような仕組みの構築を進め、このたび「人材育成体系」としてまとめたものです。

また、当協会の役員会や委員会への参画、会誌や支部報あるいは書籍における執筆、あるいは当協会主催の講習会講師体験など活動参加型の自己研鑽も合わせて、資格者の総合的なスキルアップを図っていくような育成体系になっています。

このほど、第1弾として、ゼネコンを対象とした「人材育成体系」を構築いたしました。今後、当協会と企業とが連携して、建築コストマネジメントの分野を担う有能な人材を育成するためのツールとして活用し、各方面からのご意見をフィードバックすることにより、更なる改良を加えていく予定です。

また、引き続き、設計事務所あるいはCM会社等の発注者側コスト技術者、および積算専門事務所のコスト技術者を対象とした「人材育成体系」を開発し、あらゆる職域でコスト技術者が活躍できるような環境の整備に努めてまいります。

以下に、人材育成体系モデルを紹介させていただきます。

## 人材育成体系（ゼネコン版）

1. 建築コスト分野の資格概要と、育成体系モデル
2. 建築コスト分野の資格と、企業内育成システム
3. 建築コスト分野の資格と、企業人として保有すべきスキル

「人材育成体系」は、3つの体系表で構成されています。

### 1 「建築コスト分野の資格概要と、育成体系モデル」

時系列（年齢または経験年数）を横軸にとり、当協会認定資格（建築コスト管理士・建築積算士・建築積算士補）の定義や要求される技術・知識などとともに、資質・能力や活動領域、あるいは当協会の研修内容とゼネコンの企業内育成体系（事例）が、全体的に俯瞰できる内容となっています。

### 2 「建築コスト分野の資格と、企業内育成システム」

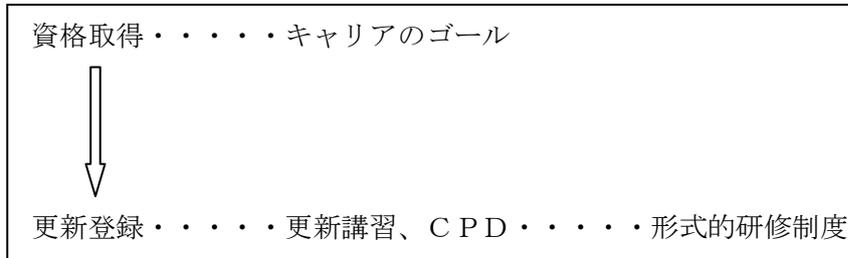
企業におけるキャリアパスとしての役割(役職)を縦軸とし、求められる実務能力や資質と育成システム（教育プログラム）が具体事例として示されています。企業の教育プログラムと、当協会の研修システムあるいは活動参加型スキルアップの仕組みとの関係が、広く俯瞰できる内容となっています。

### 3 「建築コスト分野の資格と、企業人として保有すべきスキル」

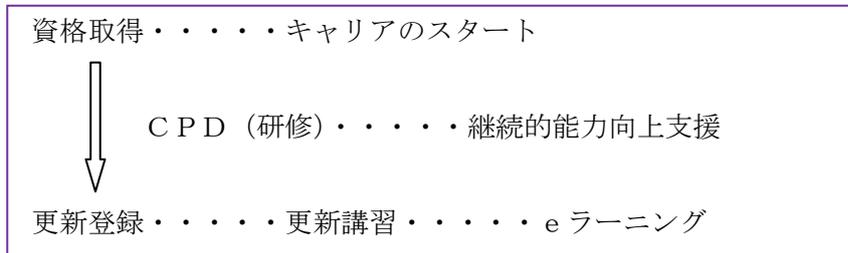
社会人として仕事を遂行するために必要な3つのスキルについて、具体的に例示しています。テクニカルスキル（業務遂行能力）、ヒューマンスキル（対人関係能力）、コンセプチュアルスキル（概念化能力）それぞれの詳細項目について、基本的な内容説明とともに、建築コスト管理士と建築積算士を対象に、具体的な例を記述しています。この内容を活用することにより、資格者のスキルアップに向けた具体的な目標設定と教育計画が可能になります。

以上

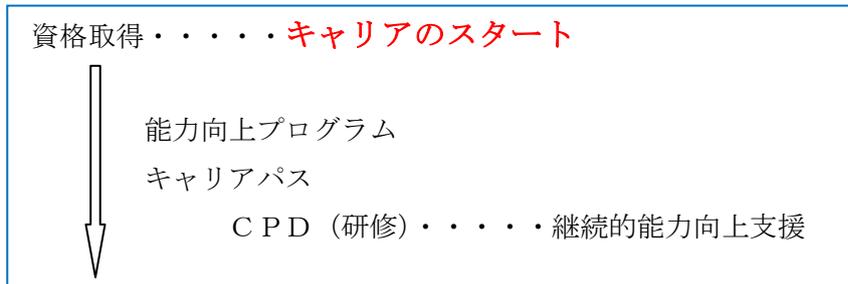
## 資格制度と人材育成に関する取り組みの推移



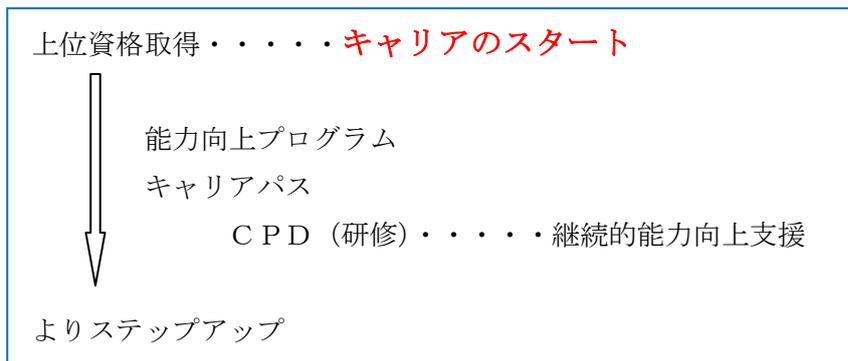
過去の資格制度



最近の資格制度と継続支援体制

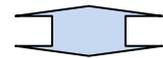


人材育成体系による  
キャリア形成支援



企業・組織の  
人材育成

個人の自己研鑽



積算協会  
資格制度

### 【職域に応じた育成体系】

ゼネコン対象	積算部門	⇒	施工系
設計事務所・CM会社対象	コスト部門	⇒	設計系、CM系
積算事務所対象		⇒	その他の分野